

平成 26 年度 保育サポーター研修会

と き 平成 27 年 3 月 15 日（日）10：00～

ところ 山口県医師会 6 階 大会議室

〔報告：山口県医師会男女共同参画部会理事 榎 美穂〕

第 6 回目となった今回の保育サポーター研修会は、サポーター 36 名、山口大学人材育成センターから 2 名の参加があった。

会ではまず、26 年度より山口県医師会男女共同参画部会長（保育サポーターバンク運営委員長を兼任）に就任された黒川典枝 先生からバンク設立の背景・経緯、保育相談の仕組み、活動状況、賠償責任保険などについての説明が詳しくなされた。山口大学医学部医学科に占める女子学生の割合が 40% に届き、山口県内で医療に従事する女性医師が年々増加している昨今、出産・育児と仕事を両立できるための支援として、この保育サポーターバンクの活動が非常に重要で、山口県の医療環境をも支えていることを強調された。

講演

この研修会では子供とのかかわりにおいて重要である、「子供の心理、病気、あそび」などに



ついて専門家をお招きしてご講演をお願いしている。今回は「子供のあそび」をテーマに『『こどもっとあそぼう！』～子供の遊びと具体的な遊び場面の作り方～』と題して、勝山保育園（下関市）副園長の中川浩一 先生のご講演を拝聴した。中川先生は大学卒業以降、ずっと保育の現場で子供と関わってこられ、子供の心をつかむ歌や遊びをたくさんご紹介いただいた。子供と一緒に歌ったり踊ったりする「昆虫太極拳」「ひげじいさん」「ア



ンパンマン」を実際に会場のみんなで汗をかい
楽しんだ。また、大人の視点とは異なった子供の
好きな絵本の紹介や子供の好きな遊びの紹介もし
ていただき、子供と関わる上でとても参考になっ
たと思う。先生の紹介された遊びは、新聞や、段
ボール、布団など、どこでも手に入る、そして電
池や器械を一切使わないものを年齢に応じた用い
方で子供を夢中にさせる遊びばかりだ。明日から
すぐにでも導入できる、子供の心をわしづかみに
する技が満載であった。

また、中川先生は、日本子ども子育て支援セン
ター連絡協議会理事他、数々の保育や子育て支援
にかかわる団体の役職を歴任しておられ、保育サ
ポーターとしての子供とのかかわり方についても
心に響くお話を聞くことができた。「子供から大
好きといわれる保育サポーターになるには、子供
にうける技を見つけ出して、すごーい！おもしろ
い！たのしい！と思わせること、技がない人は遊
びを提供すればよい。でも一番は『あなたのやさ
しい笑顔』なんですよ」というメッセージが印象
に残った。今どきの子育て環境は、少子化、核家
族化、ネット化、コンビニ化、個室化、コミュニ
ティの崩壊、実体験の貧困化など様々な問題を
抱えている。そこに血縁ではない仮親の存在（サ
ポーター）がかかわることで子供の世界を豊かに
健全にするということで、一人の子供が大人にな
るまでかかわる大人が多ければ多いほど幸せとい

うお話には深く納得させられるとともに、サポー
ターの皆様に改めて感謝の念を深くした。

昼食懇談会

講演後、地区別の 4 つのグループに分かれ、
保育サポーターバンク運営委員会のメンバーも加
わって昼食を摂りながら懇談会を行った。これま
で実働経験のないサポーターの方もおられ、せっ
かく役に立ちたいとサポーター登録をしていただ
いているのをお願いすることができず本当に申し
訳ない気持ちだった。が、実働はないけれど、た
くさんの方がサポーター登録をさせていただいて
バックアップ体制が整っているということが利用
者には大きな安心につながっていると深く感謝し
ている。また、過去または現在サポート活動をし
ていただいているサポーターさんからは、サポー
ト内容の紹介とともに、自分の子供や孫のように
深い愛情を持って保育していただいている様子に
感銘を受け、有難い気持ちでいっぱいだった。最
後に黒川部会長からも話があったが、このような
サポーターさんのお話を今後、育児支援が必要に
なる若い女性医師（男性医師も）や女子学生にも
是非聞いていただいて、安心して山口県で子育て
と仕事の両立を目指してほしいと切に感じた。

